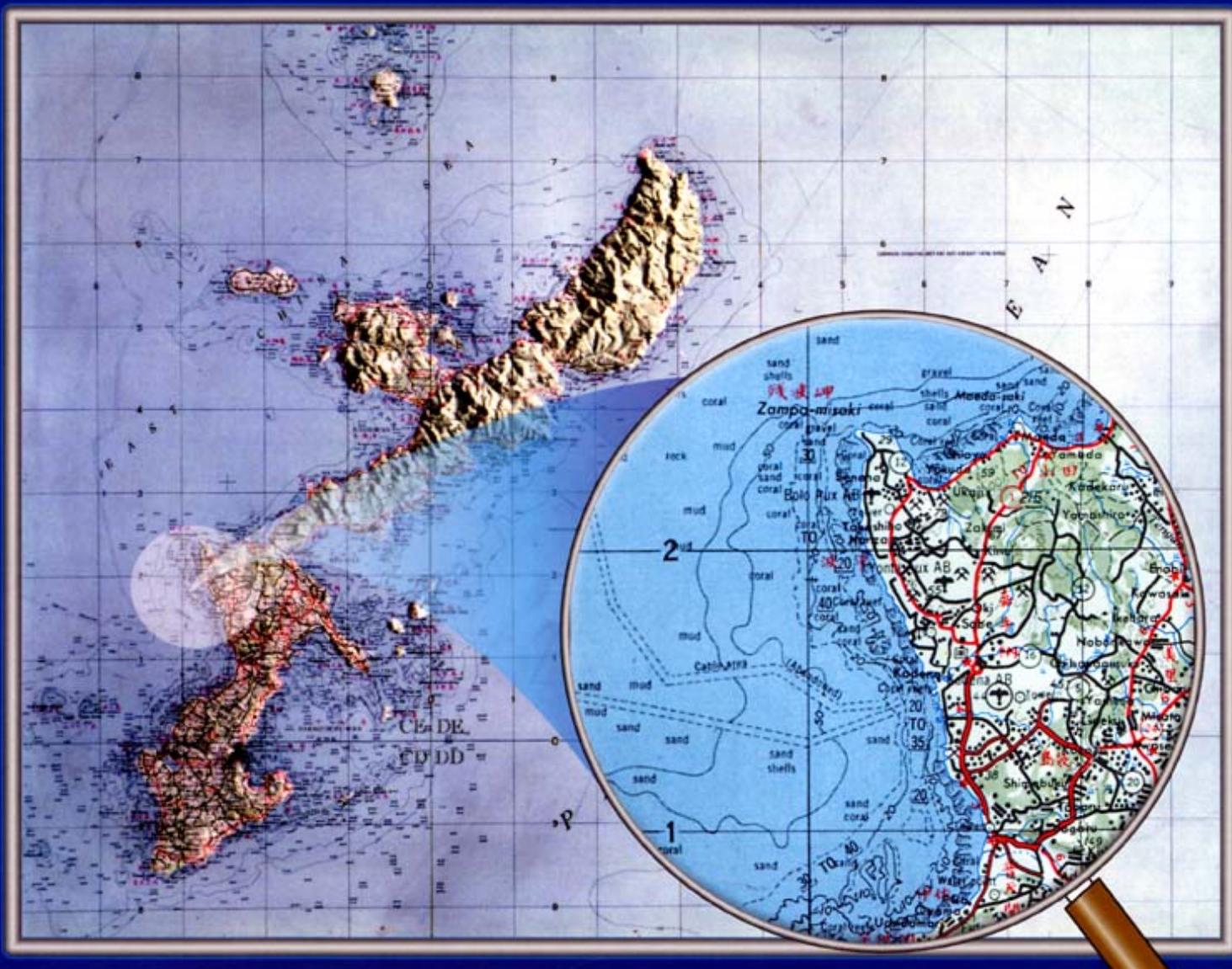


アーカイブズ

# ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第18号

2002年3月28日発行



沖縄島と周辺離島の立体地図および周辺海域図  
(タテ45.1cm×ヨコ60.3cm)

北緯26度から27度、東経127度30分から129度00分の範囲が示されている。島の起伏が立体化されており、各地の地名が和文（朱色）と英文で示されている。地図には米軍の9つの飛行場（嘉手納飛行場、那覇飛行場、伊江島補助飛行場、読谷補助飛行場、与那原補助飛行場、本部補助飛行場、普天間補助飛行場、泡瀬補助飛行場、ボーロー補助飛行場）の位置が記されている。また、沖縄島周辺の海底の地質について、サンゴ礁、砂、泥、砂礫層、岩、貝殻、軟泥などといった詳しい情報が記載されている。資料自体に作成機関や作成年等の記載はないが、地図に記載された情報から1945年頃作成されたものではないかと思われる。（ゴードン・ワーナー文書より）

## ★新着資料！ 最近収集した主な資料を紹介します。

アーカイブス  
フラッシュ

### ● 昭和初期の沖縄県文書（井野次郎文書）

第22代沖縄県知事井野次郎（いのじろう）は、昭和5年8月26日から昭和10年6月28日まで在任し、「沖縄県振興計画」の実行に取り組みました。井野が自宅に保管していた公文書「農林事業概況」（写真右）など4点と写真資料18点が、平成14年3月4日に遺族の方から寄贈されました。



### ● 「沖縄実業時報」原紙

平成14年1月31日に、琉球新報の松島弘明事業局長を通して、那覇市在住の喜名政仁氏より、大正5年1月1日発行の「沖縄実業時報」原紙の寄贈を受けました。

### ● 久場政彦辞令書

平成14年2月12日に久場政彦氏より、辞令書154点、図書14点の寄贈を受けました。

政府官公庁関係辞令書と大学関係辞令書に大別され、政府官公庁関係は、昭和29年から63年にかけて琉球政府行政主席印のあるものから復帰を境に沖縄県知事印のあるものまでその変遷が辿れます。また大学関係辞令書の中では、昭和47年5月15日復帰の日に発令された文部大臣印のある辞令書等があります。

### ● ピンセント・F・ペトローネ写真資料

平成14年2月26日に米国ニューヨーク州在住のフランク・J・ペトローネ氏より、沖縄関係写真等157点が寄贈されました。これらは、フランク氏の父で米空軍に所属していたピンセント・F・ペトローネ氏が1945年4月から46年5月にかけて撮影したもので、沖縄、日本本土、朝鮮半島の人々や風景が写っています。

（写真右：沖縄住民の衛生状態を改善する為の軍政府によるDDT散布）



### ● 映像資料

平成14年2月20日に映画監督新城卓氏より、4本のビデオテープと関連資料の寄贈を受けました。

・「秘祭」「オキナワの少年」「団塊世代の映画監督シリーズ 新城卓」（他1本）

また、東京国立近代美術館フィルムセンターより2本の映像フィルムを入手しました。

・「沖縄」（1940年）「南の島琉球」（製作年不明）

## 第6回 東京移動展「写真に見る近代の沖縄」

平成13年2月25・26日の2日間「写真に見る近代の沖縄」と題し、法政大学沖縄文化研究所と共に開催し、東京移動展を開催しました。法政大学ボアソナードタワーの展示会場には、2日間で142名の入場者がいました。

## 第52回～56回 歴史講座

「歴史から見た東アジアと沖縄」のテーマで、平成14年1月25日、2月1日、8日、15日、22日（全5回）に歴史講座を開催しました。毎回盛況で、延べ559人（平均112人）の方が受講しました。



## 第25回～29回 映写会

「戦後、日本復帰までの沖縄」のテーマで、平成14年3月1日、8日、15日、22日、28日（全5回）に映写会を開催しました。

## 日本復帰30周年記念特別展 資料に見る沖縄の歴史

沖縄には、琉球王国時代、廃藩置県、沖縄戦及び米国の沖縄統治時代、そして日本復帰といった「世替り」を経験した人々の歴史があります。特別展「資料に見る沖縄の歴史」では、これら各時代を決定づけた資料を展示します。  
(展示資料:111点 うち国指定重要文化財8点)

沖縄県公文書館 2002年5月 1日(水)~5月31日(金)

平良市総合博物館 2002年6月11日(火)~6月23日(日)

石垣市立図書館 2002年7月 2日(火)~7月14日(日)

## 講演会

日時:2002年5月1日(水) 午後3時~4時30分

演題:「近現代史における沖縄と日本」

講師:我部 政男 (がべ まさお 山梨学院大学法学部長)

日時:2002年5月3日(金) 午後3時~4時30分

演題:「21世紀の東アジアと沖縄」

講師:天児 慧 (あまこ さとし 早稲田大学教授)

日時:2002年5月11日(土) 午後3時~4時30分

演題:「東アジアの中の琉球王国」

講師:田名 真之 (だな まさゆき 那覇市歴史資料室長)

(展示会・講演会は入場無料です)



琉球国世主書状 (りゅうきゅうこく よのぬし しょじょう)

1526年(大永6)年 島津家文書 東京大学史料編纂所蔵  
国指定重要文化財 国宝指定答申(2002年3月22日)

1526年(大永6)年8月朔日(1日)、琉球国世主(尚真王)から、島津相模守(忠良)へ贈った書状。

注目の資料

## まもなく公開! 空中写真



当館では、米軍が1944年から45年にかけて沖縄各地を撮影した空中写真を米国国立公文書館から収集し、デジタル化を行っています。デジタル化することにより、撮影された地域をコンピュータ画面上で拡大して見ることができます。2002年4月から、次のデジタル空中写真を閲覧に供する予定です。

米国国立公文書館整理番号	撮影範囲	撮影年月日	枚数
ON23975	沖縄島・慶良間列島・久米島・伊江島ほか	1945年2月28日	135
ON24144	沖縄島	1945年2月28日	113
ON24145	沖縄島	1945年2月28日	108
ON24146	沖縄島	1945年2月28日	127
ON24656	沖縄島(中・北部)	1945年8月18日	162
ON27835	沖縄島(主に中南部。首里城、識名園、浦添城跡等含む)	1945年4月2日	90

## ★ ゴードン・ワーナー文書 ★

USCAR(琉球列島米国民政府)で教育局長などを務めたゴードン・ワーナー氏(与那原町在住)より、沖縄関係資料4,422点の寄贈を受けました。主な内容は、沖縄戦や米軍占領初期、そしてUSCAR時代を記録した写真、文書、マイクロフィルム、映画フィルムなどの資料です。

これら資料は、ゴードン・ワーナー文書として整理し、利用に供する予定です。ゴードン・ワーナー文書の一部(空中写真、マイクロフィルム)についてはすでに整理が完了し、多くの県民の皆様に利用されています。



戦後建設された具志頭小学校の校舎。戦後の恒久建築では初期のものの一つ。後方には戦後初期に建てられたかやぶき校舎が見える。1952~53年頃。USCAR民間情報教育局撮影



USCAR教育局長時代のワーナー博士  
琉球列島米国民政府発行『守礼の光』101号  
(1967年6月号) 26頁より



松岡政保元行政主席夫妻とランパート高等弁務官夫妻。  
左は高等弁務官付通訳のジョージ・サンキ氏。  
1970年1月1日 USCAR撮影



全軍労デモの様子 沖縄島瑞慶覧 1970年8月28日  
米陸軍撮影

ゴードン・ワーナー文書4,422点の内訳は次のとおりです。 (平成14年3月現在)

① 写真（沖縄戦、降伏文書調印式、米軍占領初期の沖縄の様子、戦後に建設された校舎など）	1,407点
② 空中写真大判ネガフィルム（10・10空襲の様子など）	72点
③ 地図・図面（「琉球列島に米国が保有する施設 1971年7月1日現在」など）	39点
④ 文書・マイクロフィルム（太平洋戦争関連の報告書類など）	1,123点
⑤ 映画フィルム（「沖縄戦」など）	2点
⑥ スライド（戦後の学校教育の様子、レッドハット作戦資料など）	1,767点
⑦ 書籍	10点
⑧ その他	2点



屋良座森城 1945年頃



本部西海岸一帯 1945年 米空軍撮影



10・10空襲直前の県庁周辺 1944年



10・10空襲時の那覇港および旧那覇市街 1944年

閲覧室には県内はもとより、県外、外国からも沖縄に関する情報を求めての問い合わせが寄せられます。

**Q** 対米請求権に関して、土地問題でどれくらいの方が補償請求をしたか調べたいのですが。

**A** 「対米請求権問題の記録」「対米協15年のあゆみ」などに補償に関する概要があります。

**Q** テレビ番組作成のため、米軍の沖縄上陸の写真を使用させて下さい。

**A** USCARの写真資料の中にいくつか関連資料があります。資料が特定できたら、複写と番組放映に必要な手続きを行って下さい。

**Q** 対馬丸の犠牲者名簿はありますか？

**A** 「写真集 沖縄戦」に記述があります。

**Q** イタリアの大学に在籍する学生です。沖縄のノロ、ユタについて論文をまとめたいのですが、統計的な情報はありますか？

**A** ノロに関する概要、論文はいくつかありますがユタに関する統計的資料は確認できません。ユタについては個人的な関わり合いが強いという性質上、統計的資料が少ない為と思われます。



### ～公文書館の新聞あれこれ～

公文書館には公文書や行政刊行物、写真、地図などさまざまな資料が所蔵されていますが、新聞もそのなかのひとつです。小さな沖縄ですが、振り返ると、発刊されては消えていったもの、読み続けられるものなど、いろいろな新聞があるのがわかります。また、「アメリカからみた沖縄」を知るために、沖縄戦前後のワシントンポスト紙やニューヨークタイムズ紙をマイクロフィルムで所蔵しています。

新聞は紙質の良くない、保存の難しい資料のひとつです。また、速報性が高く重宝される資料の割には定期的にかなりの部数が発行されるため、継続して保管していくのが大変な資料もあります。そのため、昔の新聞などには欠号が多く見られます。

ここでは公文書館が所蔵している新聞をご紹介します。各紙の発行年度など、詳しい情報は閲覧係までお問い合わせ下さい。

うるま新報・みやこ時報・宮古新報・沖縄タイムス・沖縄毎日新聞・海南新時報  
 宮古タイムス・宮古経済新報・宮古公論・宮古新報・宮古新聞・宮古大衆新聞  
 宮古朝日新聞・宮古婦人新聞・宮古毎日新聞・宮古民友新聞・時事新報・時事讀物  
 自由民報・新宮古・先島評論・大島新聞・南西新報・南琉タイムス・南日日新聞  
 日刊南沖縄・八重山タイムス・八重山教育新聞・八重山時報・八重山新報  
 八重山朝日新聞・八重山日報・八重山婦人新聞・八重山毎日新聞・琉球弘報  
 琉球新報・沖縄朝日新聞・球陽新報・大阪球陽新報



九月十一日。

その日は、秋晴れのさわやかな日でした。全面ガラス張りの壁から気持ちよく朝日の差し込む米国国立公文書館の閲覧室でいつものように仕事をしていると、他のリサーチャーから「ヨークの世界貿易センターへセスナ機が突っ込んだ」というニュースが入りました。事故だと思っていると、しばらくしてもう一機突っ込んだというニュース。これですぐテロだと直感しました。

その後、国防総省にも飛行機が突っ込み、世界貿易センターが崩れ落ちたというニュースで閲覧室は騒然となりました。一瞬、ガラス張りの壁を見上げて「まさか、ここにも…」という思いが頭をよぎりました。というのも、米国国立公文書館はアメリカにとって国家の「歴史」が詰まつた最も重要な建物の一つだからです。事実、ワシントン市内の旧館の展示室にある「独立宣言」、「合衆国憲法」、「権利章典」の三つのオリジナル文書は、まさかの事態に備えて、毎晩、陳列ケースごと地下六メートルの所へ沈み込む仕組みになつています。このオリジナル文書だけは、たとえ首都が焦土と化しても守り抜くという決意の表れです。

さて、同時多発テロ事件以降、アメリカでは組織の危機管理に対する関心

## テロと文書管理

が高まりつつあります。連邦各省庁の文書管理を統括する国立公文書館も文書の危機管理プログラム (Vital Records Program) を強化するよう各連邦省庁へ通達しました。

「文書の危機管理プログラム」とは、組織がテロや自然災害などの危機に遭つても、その機能をすぐに回復できるよう、日頃から準備しておくものです。通常業務を再開するには何が必要か。職員や顧客の権利を保証する文書とは何か。これらを明確にしながら、危機に迅速に対処するために、現状の分析、実行プランの策定、訓練の実施などを組織的に行っておくのです。

ただ、このアメリカといえども現場での対応はまだ不十分で、米国国立公文書館が最近主催したセミナーでも「文書の危機管理プログラム」そのものの意義がよく分からぬという現場の声が紹介されました。それに対する答えは、「ある朝出勤したら、あなたの職場の建物が無くなつていました。その時、あなたはどうしますか。それを考えておくのが危機管理プログラムです。」

テロ以降、社会全体が大きく変わってしまったアメリカ。皮肉にも、文書管理がこれまで以上に重要な役割を果たすようになってきました。

## 利用者の声

## 公文書館の皆さんへ

屋我地小学校 六年生一同

こんにちは。私達は、修学旅行の時にお世話になった、屋我地小学校の六年生一同です。

私達は、初めて公文書館を見学しました。初めは公文書館は、どんな所なのかもあまりくわしく知らなかつたけど、中を見学していくうちに、昔の本や資料などが、今でも大切にそのままの状態で保管されていることに私達はびっくりしました。

破れている本や、穴のあいた資料でも皆さん一枚一枚もすぐに答えてくれました。私達も皆さんのように質問したらすぐに対答される、すばらしい人になつて公文書館みたいな所で働いてみたいのです。

公文書館の皆さん、どうもありがとうございました。私は、この見学で学んだことをいかして、私達は勉強に役立てていきたいたいと思います。

また、来年行く五年生もよろしくお願ひします。



## ● 日本復帰30周年記念特別展 展示期間のお知らせ

2002年5月1日(水)～31日(金)の間、日本復帰30周年記念特別展「資料に見る沖縄の歴史」を開催します。(3頁参照)  
上記開催期間中は、月曜日等の休館日にも休まず開催しています。ぜひお立ち寄りください。

## ● 琉球政府公報をホームページにて公開

当館ホームページ「ねっとOPA」にて、デジタル化した琉球政府公報(1952年～1972年)約57,000頁が、PDFファイルで閲覧することができます。

### ● 入館無料

### ● 開館時間

09:00～17:00 (閲覧請求は16:30まで)

### ● 休館日

- ①月曜日
- ②国民の祝日(昭和23年法律第178号)に規定する  
休日(月曜日と重なる場合は火曜日)
- ③12月28日～翌年1月4日(年末年始)
- ④6月23日(慰靈の日)
- ⑤特別整理期間(年間20日以内で館長の定める日)

### ● 利用施設

#### <展示室 閲覧展示棟1階>

公文書等を展示して企画展、常設展を開催しています。

#### <講 堂 閲覧展示棟1階>

講演会、講座、映写会等を開催しています。

#### <閲覧室 閲覧展示棟2階>

資料の閲覧ができる他、ミニシアター(団体用)、ビデオブース(個人用)で映像資料をご覧になれます。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

(赤色) 休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	21
19	20	21	22	23	24	28
26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

### ● 閲覧室の利用方法

- 初めて利用される方は「利用証」の交付を受けてください。  
その際は身分証明書の提示をお願いします。
- 利用証をお持ちの方は、閲覧申請をして、資料の閲覧ができます。
- 参考資料室の資料は自由に閲覧できます。
- 閲覧室への所持品等の持ち込みは、制限がありますのでロッカーをご利用ください。
- 資料の館外貸出は行っていません。
- 資料の複写ができます。(複写は実費をいただきます。)
- 担当職員が資料に関する問い合わせ・相談に応じます。

アーカイブス  
沖縄県公文書館だより ARCHIVES 第18号  
発行日 2002年3月28日  
発 行 沖縄県公文書館  
編 集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部  
〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3  
TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879  
URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>

### 交通の案内

バスをご利用のかたは新川バス停下車(徒歩3分)

- ・那覇交通(株)市内線1番
- ・東陽バス(株)91番・96番

